

# 施設ミニトマト促成長期栽培におけるタバコカスミカメを利用したタバココナジラミ防除マニュアル

令和5年3月作成  
令和6年8月改変

## タバコカスミカメとは

カメムシの一種。体色は薄緑色。成虫の体長は3.5mm程度（右図）。温暖な気候を好み、香川県では野外で自然に生息している。食性は雑食性で、植物を吸汁するほか、コナジラミ類、アザミウマ類といった微小な昆虫を捕食するため、トマト栽培において黄化葉巻病ウイルスを媒介する重要害虫であるタバココナジラミの防除に利用できる。



## バンカー植物について

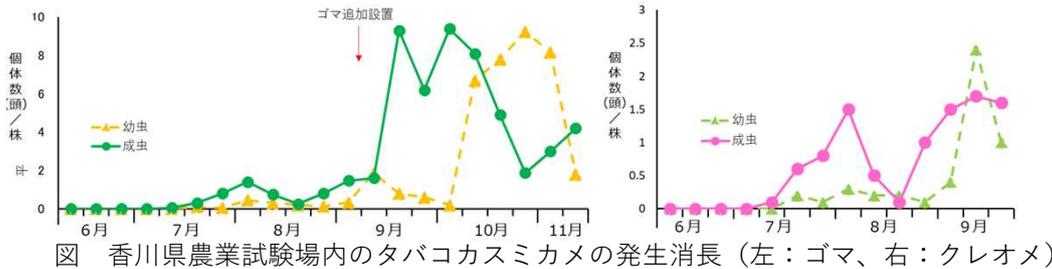
バンカー植物とは、天敵を維持可能な植物のこと。タバコカスミカメには、【クレオメ】と【ゴマ】を用いる。いずれも種子を購入して栽培可能。各バンカー植物の特徴は以下のとおり。

- ・クレオメ：ゴマより寿命が長い。背が高くなる。発芽適温は20～25℃、真夏の高温期は発芽しない。より長持ちさせるためには、大きいプランターに植えて根域を確保する。
- ・ゴマ：クレオメより寿命が短い。背が低い。発芽適温は25℃前後で、15℃以下ではほとんど発芽しないが、春よりやや発芽率は劣るものの、真夏でも発芽する。

## 導入方法

### ①タバコカスミカメの収集

タバコカスミカメは香川県では7月頃から発生し、盆明け頃に特に多くなる。4～5月にクレオメを播種し、6月末にはハウス外に設置しておく。タバコカスミカメが自然と集まり、花付近の茎によく寄生する。



### ②ハウス内への放飼

- ・ハウス内にクレオメのプランターごと運び込み、タバコカスミカメを導入する。タバコカスミカメのクレオメへの付着を確認するには、白いバットの上でクレオメの花を払い、虫が落ちてくるか確認する。
- ・クレオメに害虫が発生している場合は、天敵に影響の少ない農薬で害虫を防除してから導入する。
- ・タバコカスミカメの密度が高すぎると、ミニトマトを加害する可能性があるため、ハウス内にプランターを分散して設置する。
- ・導入時にハウス内にコナジラミが見られる場合、天敵に影響が小さい農薬で防除し、ハウス内の害虫密度を下げた後から放飼する。
- ・放飼前に定植時粒剤等を使用する際は、タバコカスミカメの定着の妨げになることがあるため、農研機構のマニュアルを参考に、農薬の影響期間を過ぎてから放飼する。
- ・タバコカスミカメ製剤を購入して放飼する際は、クレオメをハウス内に設置し、クレオメ上に放飼する。

### ③ハウス内での管理

- ・タバコカスミカメは、サビダニ類、ハモグリバエ類、鱗翅目害虫（ハスモンヨトウ等）は捕食しないため、それらの発生が見られた場合は、タバコカスミカメに影響の少ない農薬で防除する。
- ・黄色粘着シートをミニトマト樹幹内に設置し、タバココナジラミのモニタリングを行う。設置場所はハウスサイドや入口、谷といった開口部付近とし、ハウス内に分散させ数か所設置する。タバココナジラミの増加が見られた際はタバコカスミカメに影響の小さい農薬で防除する。
- ・タバココナジラミの密度が抑制できない場合は、慣行の農薬による防除に切り替える。
- ・クレオメにハウス外の害虫が付着するのを防ぐため、ハウス外にプランターを持ち出さないようにする。
- ・タバコカスミカメの利用適温は17.5℃以上であり、冬季は密度が低下する。タバコカスミカメをクレオメ上で多く維持したい場合は、ハウス内に小型の簡易ビニルハウスを設置してその中にクレオメのプランターを移動し、小型ハウス内を小型のヒーター等を用いて25℃程度に加温する方法もある。